

令和4年度 静岡市政策・施策外部評価委員会

評価結果報告書

1 評価を行う背景

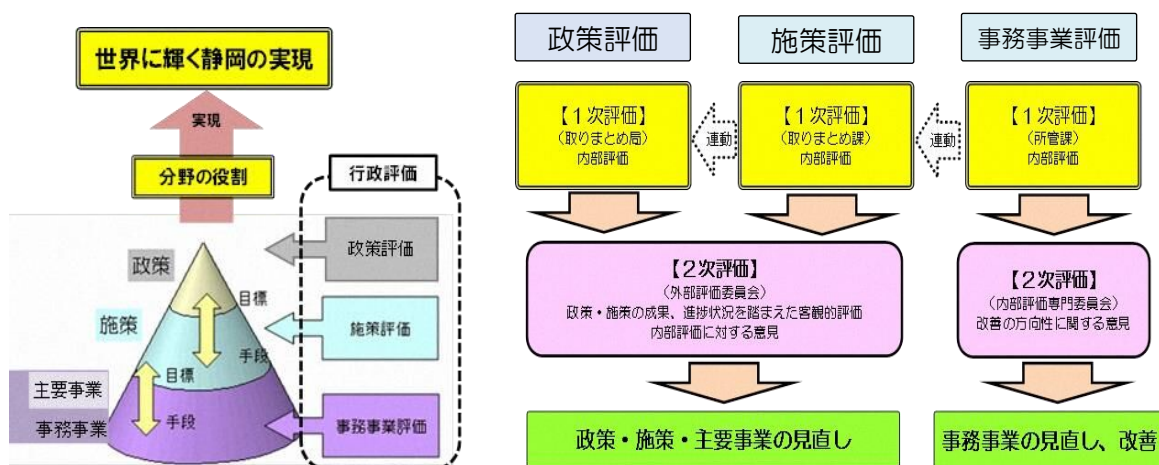
本市では、静岡市自治基本条例に基づき、第3次静岡市総合計画（以下、「3次総」という。）の政策・施策や事務事業を対象に、行政評価を実施している。評価に当たっては、政策、施策、事務事業の3階層について、所管課による1次評価と、所管課以外の視点による2次評価という、3階層2段階の評価を実施している。なお、本報告書については、政策・施策評価の2次評価の評価結果をまとめたものである。

※静岡市自治基本条例 抜粋

第24条 市の執行機関は、その実施する政策、施策及び事務事業の成果、達成度等を明らかにするため、行政評価を実施し、その結果を公表しなければならない。

2 市の執行機関は、行政評価の結果を政策、施策及び事務事業に適切に反映させなければならない。

（静岡型行政評価制度のイメージ）



2 評価目的

令和5年度から始まる第4次静岡市総合計画（以下、「4次総」という。）を効果的に運用していくために、その基となっている第3次静岡市総合計画（以下、「3次総」という。）の重点プロジェクトの中で実施している政策を対象として評価を実施する。

3 評価対象

次の3次総の重点プロジェクトを対象に評価を実施した。

都市像	政策名
共生都市	自然環境の保全と適正な活用を通じた人と自然の共生
文化都市	静岡文化の進化（まちは劇場の推進）
文化都市	静岡文化の進化（オクシズ地域の活性化）

4 評価方法

（1）評価の主体

評価は、市の附属機関である「静岡市政策・施策外部評価委員会」にて実施。

（2）評価の視点

第3次総合計画は令和4年度で終了し、令和5年度から第4次総合計画を運用していく段階にあるため、「これまでの取組に対する評価」と「4次総を推進していくために必要なポイント」という観点から評価を実施する。

○視点例：これまで取組みに対する評価（活動内容と指標）

- ・ 目標達成に対しどのような取組が評価できるか
- ・ 目標達成に対する指標が適切であるか など

○視点例：4次総を推進していくために必要なポイント

- ・ 目標達成のために、必要な視点や取組
- ・ 効果をより適切に把握するために、既存の指標に加えて必要な指標や考え方
- ・ 留意すべき社会情勢などの変化 など

（3）評価実施日

令和5年3月15日 10:00～15:00

実施会場：静岡庁舎本館3階 第1会議室（委員はリモートで参加）

5 評価結果

(1) 【共生都市】自然環境の保全と適正な活用を通じた人と自然の共生

【3次総計画期間中の取組と4次総について】

- 南アルプスユネスコエコパークに関する政策、事業について、市として熱心に取り組んでいる。エコパークは自治体の関心も高くなっているため、早期から取り組んできた静岡市が、先頭に立って引き続き推進する姿勢が必要。
- 自然環境の保全を、南アルプスを始めとした山間地域だけでなく、里地里山などの都市周辺地域を含めて進めてきたことは良い視点である。「静岡市ならではの自然環境がこのように活かされている」ことが市民に伝わるような評価手法があるとなお良い。
- 4次総5大重点政策について、目指す姿と指標、取組内容が体系化されていることは評価できる。一方で、様々な物事は繋がりを持っており、分野横断的に政策を考える視点についても検討できると良い（主たる効果以外にも、副次的に発生する効果を捉え、横の繋がりを推進していく）。

【指標設定と調査について】

- 高山植物種数に関する指標などは、市の取組によりどれだけ影響があったかを把握することが難しいものを設定しているため、次のような視点をもって検討すると良い。
 - ・現場の取組をベースにして、その取組が何に影響を与えているかを検証する
 - ・市民目線での指標（例：あさはた緑地を利用した人が、生活と自然との関係性を自分ごとのように考えるようになった割合など）を捉える
 - ・取組には段階（「環境に関する取組を理解している」「取組を理解し行動に移している」など）があるため、その段階に合わせて指標設定や調査方法を検討する
- 「南アルプスを活かす」という観点では、農業も重要なファクターであるため、エコパーク管内で数値が取得できれば、活性化に資する指標として採用できる可能性がある。
- 経年変化を把握していく場合、調査の質問項目や選択肢、前提条件を変えないこと。本件のように、やむを得ない理由により調査地等を変更する場合は、後から比較ができなくなるため、従来手法による調査も継続した方が良い。
- 1年で成果がでることはほぼないため、計画の節目（例：前期4年、後期4年）に取得したデータで振り返ることを念頭において、指標や調査方法を検討する。

(2)【文化都市】静岡文化の進化（まちは劇場の推進）

【3次総計画期間中の取組と4次総について】

- 「まちは劇場」と「文化」という言葉のイメージに違いがある。どのような取組なのかを丁寧に説明する必要がある。
- 政策目標と取組内容の関係がよくわかり、整合性がとれた政策体系となっている。
- 「まちは劇場」という言葉が浸透してきた点は評価できる一方で、認知度と理解度にギャップが生じていると考えられるため、どう埋めていくかを検討する必要がある。
- 市民参加を進める中で、「まちは劇場」を支えているパフォーマーのほとんどは学業や仕事と両立している。パフォーマーが輝くための環境を創るために、企業や学校に対し、意識調査等のアプローチが必要。
- 文化スポーツ分野は市内の活動という観点で、観光交流分野は市外から来てもらうという観点で指標を設定しているが、文化スポーツは観光としての魅力に直結するため、相互作用がある。分野を分けているからこそ、相乗効果が発揮できるような視点が重要。

【指標設定と調査について】

- 「文化」という言葉は、受け取る人によって意味が変わるため、調査を実施する際には、回答者が共通した認識をもてるような工夫が必要。
- 「認知度」のような量的なものだけでなく「理解度」のような質的なものも指標として設定し、評価に反映させた方がよい。
- 「文化芸術を通じて人々が豊かになる」とはどういうことかを掘り下げると、何を指標として計測した方が良いかがより明確になる。また、「豊かさ」は人や年代によっても感覚が異なるため、複数の指標で管理した方がよい。
- 「スポーツをすることが好きな小・中学生の割合」のような指標は、外部要因が大きく影響するため、子どもだけでなく保護者に対しても取組や調査を実施するという視点を持つと、よりの確な政策検討に繋がられる可能性がある。

(3) 【文化都市】 静岡文化の進化（オクシズ地域の活性化）

【3次総計画期間中の取組と4次総について】

- 移住世帯数を把握している点は良い。また、2地域居住や中長期滞在という観点でデータ取得し指標に反映できると、より「地域の魅力」を把握しやすくなる。
- 「静岡型ライフスタイル」は、他都市にない特徴的な部分。オクシズというネーミングも素晴らしく優位性は高いと考えられるので、上手くアピールできるかが大切。
- 中山間地域における移住については、移住世帯数や人数だけでなく、どのような人が移住したかという観点が大事。地域の将来を考えるために、どのようなターゲットを設定し何に取組むのかという考え方が必要。
- 同等条件の自治体では、中山間地に観光客や人をどう呼び込むかという政策になりがちだが、市内都市部の子どもたちをターゲットに、都市農村交流（例えば、給食にオクシズ産の食材を使用する、都市部の学生がオクシズで学習する機会を創る等）のような取組も必要と考えられる。
- 移住者を獲得するコストが上昇していることや、移住制度を利用した方が期間経過後に別の地域に移住してしまうことなどを踏まえた、移住制度の検討が必要。

【指標設定と調査について】

- 市産材の取引価格について、変化があまり見られず、市の取組がどれほど影響を与えているかの判断がしにくいため、別の観点から指標を検討してもよい。
- 政策の概念が大きく、「誰が」「何をする」という整理が難しい。指標を考える上では、各取組により様々なターゲットが想定されるため、誰をターゲットに、何のデータを取るのかを整理した方がよい。
- 指標として、「地域の活性化」をどう捉えるか検討が必要。事業認定数等の量的な指標だけで判断することは難しいため、生活拠点形成事業の中で取得しているアンケートを活用し、質的な部分に焦点をあてた指標を設定できるとよい。
- アンケート調査等は、質問文や条件を変えずに一定期間取得する前提だが、社会情勢の変化により、期間途中であっても、新たに把握した方がよい数値が出てくる場合がある。その際には、新しく指標を設定し経年変化を確認することと、取組そのものを変化させていく姿勢が大事。

令和4年度 静岡市政策・施策外部評価委員会

令和5年3月15日現在

区別	評価対象	所属・役職	氏名
委員	全て	明治大学 名誉教授	きたおおじ のぶさと 北大路 信郷
		明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 教授	みなもと ゆりこ 源 由理子
		東洋大学 社会学部 教授	よねはら あき 米原 あき
		株式会社 Co-Lab 共同代表	いとう ふみのり 伊藤 史紀
臨時 委員	共生都市	株式会社十山 取締役	すずき こうへい 鈴木 康平
		一般社団法人 グリーンパークあさはた 所長	きのした さとし 木下 聡
	文化都市 (まちは劇場)	株式会社オフィススノド 代表取締役	ゆのき やすひろ 柚木 康裕
	文化都市 (オクシズ)	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授	ふなと しゅういち 船戸 修一

敬称略